

大学生観光まちづくりコンテスト2012実施計画

『地域』と『学生』を同時に育む、コンテストメディア
留学生のアイデアを訪日外国人の観光活性化に活用

大学生観光まちづくりコンテスト2012運営委員会

はじめに

この度は、『大学生観光まちづくりコンテスト2012』の後援のお願いの機会を賜り誠に有難うございます。

我が国の「観光立国」推進において、観光による国内外の交流人口の拡大や日本独自の文化財・伝統芸能等の文化遺産の活用は、地域経済活性化や雇用機会増大の切り札であると言われており、観光立国を担う人材の育成が不可欠となっています。

そこで、観光人材育成事業の一環として、全国の大学生を対象に『大学生観光まちづくりコンテスト2012』を開催し、実際に地域の人々と触れ合い、協力しながら新しい観光まちづくりを創造するプランを募集し、成果発表会を昨年に引き続き実施します。本年は日本にいる留学生も参加できる部門を増設し、昨年の実施で培った課題を踏まえ企画を進めてきました。

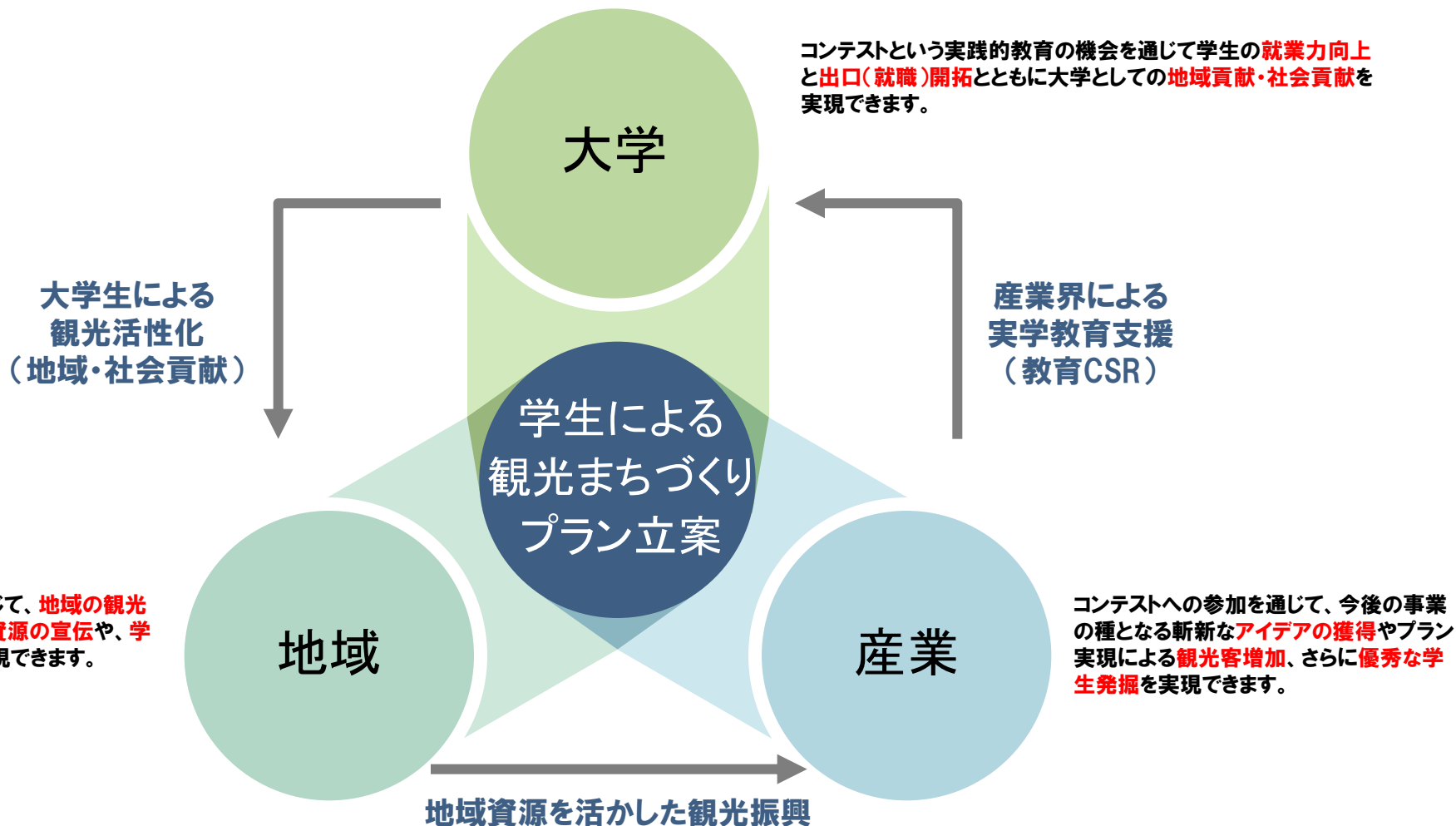
地域の皆様や地域を応援する企業との連携で、優秀な観光まちづくり人材を輩出できるよう取り組む所存です。何卒後援をご検討賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

大学生観光まちづくりコンテスト2012運営委員会
運営委員長 歌代 豊

コンテストの狙い

大学生が、自ら構想した観光まちづくりプランを競うコンテストを開催します。

コンテストを通じて、**学生への実践的教育、地域資源の掘り起こし、地域ビジネス振興**を実現します。



実施体制

主催:

- 大学生観光まちづくりコンテスト2012運営委員会

運営委員会:

- 歌代豊 (明治大学 経営学部 教授)
- 宮崎里司 (早稲田大学 大学院 日本語教育研究科 教授)
- 菊池重雄 (玉川大学 経営学部 教授 教学部長)
- 横山千晶 (慶応義塾大学 法学部 教授)

運営委員会(事務局):

- 株式会社JTB法人東京 / 株式会社三菱総合研究所

協力(自治体・地域団体):

- 箱根・湯河原・熱海・あしがら観光圏

後援:

- 関係府省: 観光庁・経済産業省・文部科学省
- 関係団体: 日本観光振興協会・日本旅行業協会・かながわ観光大学推進協議会

協賛(企業):

- アサヒビール・小田急箱根ホールディングス・神奈中観光バス・伊豆箱根鉄道グループ(仮)

2012年度のコンテストプラン

2012年度のコンテストの企画は以下の通り。

【対象地域】

- 「箱根・湯河原・熱海・あしがら観光圏」
 - 南足柄市・中井町・大井町・松田町・山北町・開成町・真鶴町・湯河原町・小田原市・箱根町・熱海市の11市町の観光資源を発掘し、観光まちづくり活性化プランを考える

【テーマ】

- フリーテーマ部門

以下の要素から選択し観光活性化プランを検討

- A. 神奈川県を推進するEVやEVバイク、EVレンタサイクルを活用(交通環境課から)
- B. 訪日外国人に対するコンテンツ開発を活用
- C. スポーツを活用
- D. 物産、ご当地グルメ
- E. 回遊ルート
- F. その他(自由テーマ)

- 訪日外国人向けフリーテーマ部門

- A. 訪日外国人に対する旅行商品
- B. 訪日外国人に対する特産品・物産
- C. 訪日外国人に対するプロモーション
- D. その他(訪日外国人向け自由テーマ)

※このテーマは留学生が1名以上入っている事が条件

【参加チーム数】

- 80チーム(20大学以上)程度から15チーム程度選抜

【本選要項】

- 参加は無料(旅費、資料費等は参加者の自己負担)

【審査基準】

- 新規性 (アイデアがユニークか。既存のものと差別化されているか。)
- 分析・構成力(地域の課題を明確に分析し、論理的に企画を構成しているか)
- 効果(集客力はあるか。現地の経済性や雇用に貢献するか)
- 実現可能性(提案内容が実現可能なものか)
- パフォーマンス(プレゼンテーションが効果的で訴求力があるか)

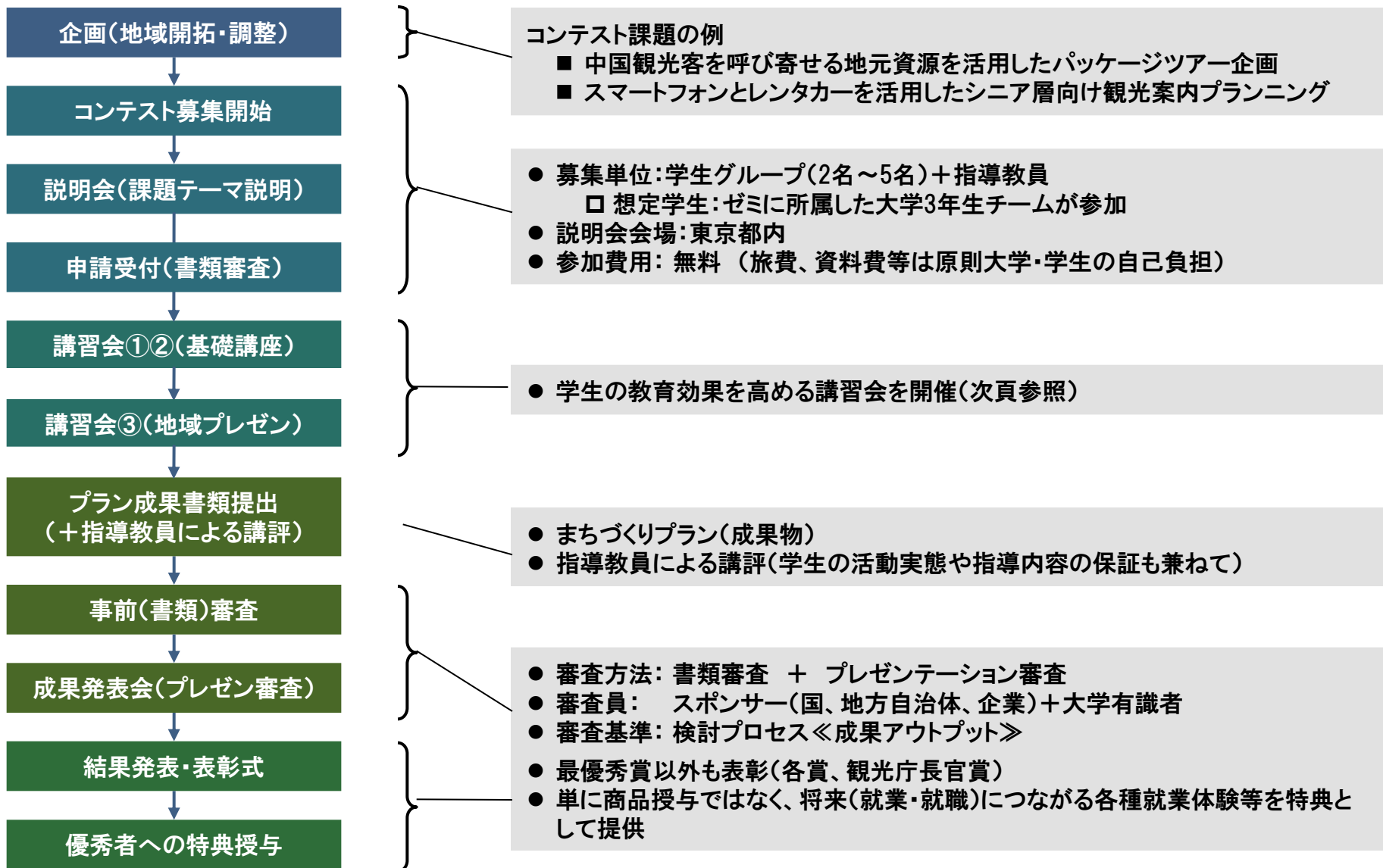
【審査員】(予定)

- 観光庁 ニューツーリズム推進官 坪田 知広
- 経済産業省 未定
- 文部科学省 未定
- 箱根・湯河原・熱海・あしがら観光圏推進協議会会長 数馬 勝
- 桜美林大学 名誉教授 内藤 錦樹
- 神戸夙川学院大学 観光文化学部 教授 田邊 文彦
- 法政大学大学院 教授 黒田 英一
- 宮城大学 事業構想学部 宮原 育子
- 株式会社JTB法人東京 取締役 営業推進本部長 大塚 雅樹
- 株式会社JTB 東日本国内商品事業部 首都圏仕入販売部長 鈴木 章敬
- 株式会社三菱総合研究所 宮崎 俊哉
 - ※運営委員会委員は利害関係者のため除外。

【表彰】

- 優秀なプランをJTB法人東京が商品化やプロジェクト化を検討
- 優秀なチームには企業や地域等とのへ特別ワークショップ等検討
- 最優秀は観光庁長官賞の授与
- 各賞には副賞を準備

コンテストの基本的な流れ



本コンテストにおける人材育成

大学の実践的教育プログラムを展開する講習会開催。希望者1チーム2名まで参加受付。

講習会(新宿パークタワーにて開催)

- 地域からのプレゼンテーション(地域資源の紹介、課題提示など)
- 現地フィールド調査手法基礎講座(MRI)
- 観光まちづくりプランニング基礎講座(JTB法人東京)

指導教職員とのコラボレーションにより、大学教育プログラム・キャリア開発プログラムとして機能

- 学生による成果書類提出の際、指導教員による講評も合わせて提出いただく。

<指導教員による講評の内容>

学生の活動履歴の総括

指導教員として助言を行った内容

学生の成果物のアピールポイント

ご協賛のお願い

昨年応募状況 12大学 40チーム 参加学生数 167名

■大学名

立教大学、玉川大学、慶應義塾大学、国士舘大学、桜美林大学、
首都大学東京、松蔭大学、神戸国際大学、跡見学園女子大学、
早稲田大学、多摩大学、明治大学



このコンテストの目指すべきゴール

参加する学生はもとより、産業界や地方自治体等にメリットがあり、具体的な成果を創出することがゴールです。
「箱根・湯河原・熱海・あしがら観光圏」の地元の魅力を活かしたまちづくり活性化が実現できるよう応援します。

箱根・湯河原・熱海・あしがら観光圏に係るSWOT分析

【機会】

- ・景気低迷による安近短ニーズの高まり
- ・体験・交流・学習型ニーズの高まり
- ・富士山静岡空港開港、羽田空港国際化
- ・Y150による情報発信性の強化
- ・健康志向、自然志向の高まり
- ・国の取り組み強化、等

【脅威】

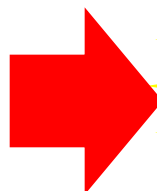
- ・世界的規模の景気低迷、消費の落ち込み
- ・海外からの観光客の減少傾向
- ・観光を巡る地域間競争の激化
- ・社会的な不安の高まり（感染症など）
- ・余暇関連市場の縮小傾向
- ・国の経済対策による高速道路の値下げ

【強み】

- ・首都圏からのアクセス性、
- ・箱根・熱海の知名度、日本を代表する温泉地
- ・水、花に因む豊富な自然資源
- ・歴史・文化資源、伝統技術の数々
- ・民間、NPOの活発な活動
- ・高い再訪率

【弱み】

- ・低い回遊性
- ・一部の交通渋滞
- ・一部業種の地域内調達の低さ
- ・観光への取り組みの（地域）温度差
- ・低い消費単価（箱根・湯河原以外）
- ・宿泊施設の割高感、連泊数の少なさ



大学生の新しい視点で、
「箱根・湯河原・熱海・あしがら観光圏」
の課題解決を目指します！

